

路線バス

乗って守ろう みんなを運ぶ

市民が作る
市民編集
のページ Vol.87

皆さんは日ごろの移動手段に何を利用していますか。公共交通機関は、省エネルギーの促進、交通渋滞の緩和、交通事故の抑止、高齢者や障害者などの移動手段の提供など、重要な役割を担っています。しかし本市では、マイカーの普及などにより利用者離れが進んでいるのが現状。そのような中、県バス協会や各運行会社では、工夫を重ねて安全で便利な移動手段を提供しようと頑張っています。今回はその取り組みについて、県バス協会で話を聞きました。

担当は市民編集委員 高橋・杉山。

問い合わせは 交通政策室(政策推進課内) ☎898-5939

運賃を工夫して 割高感を軽減

バスを利用するとき気になる運賃。少しでもお得に利用できるよう、さまざまな取り組みを進めているそうです。

まず、共通バスカード「ぐんネット」です。これは、運行会社に関係なく、前橋・高崎周辺のバス路線で使えるカードです。利用できる額より割安に購入でき、とてもお得。例えば、5,000円のカードで6,050円分利用できます。65歳以上の人には、さらに割引率が高くなる「敬老割引バスカード」もあります。これらのカードを1枚持っていれば、小銭を準備する手間もなく、とても便利。有効期限はないので、ときどきしか乗らない人でも購入しやすいのではないのでしょうか。

また、近距離運賃の割高感を軽減するため、市内均一運賃を実施しています。J R前橋駅を中心に100円・150円・190円区間を設定。市街

地での近距離利用がしやすくなっています。

利用者の気持ちになって 自転車積載バス

前橋に住んでいる人なら、赤城山ろくのひたすら続く上り坂を知っているでしょう。この坂を自転車で登っていくのは大変なことです。ここに着目し、運行開始されたのが自転車積載バス。



買い物の後はらくらく帰ろう

人は多いと思います。これは、J R前橋駅と上電中央前橋駅をつなぐ中央前橋シャトル線の車両で、さわやかなけやき並木とあいまって「詩のまち前橋」の雰囲気を感じさせてくれます。12月には車内にクリスマスの装飾も施され、利用者に喜ばれているそうです。

また、座席の配色をカラフルにしている路線や、だんべえ音頭や癒し系の曲を流している路線もあります。

このように、見た目や車内の居心地のよさも工夫し、みんなに親しまれるバスを目指しています。

赤城山まで 1本で行けるバスも

さらに、本市では来年度、赤城山直通バスの運行支援を予定しているとのこと。J R前橋駅と赤城山頂までを乗り換えなしでつなぐ、便利なバス。一年を通して土日曜・祝日の運行を予定しています。ぜひ、赤城山の自然を満喫してはいかがでしょうか。

感じてみませんか バスのいいところ

各運行会社のさまざまな取り組みを聞いて、思っていたよりも利用しやすい工夫されているんだと感じました。まずは乗ってみて、バスがどんな物か感じてみませんか。これからの暖かくなる季節、家族で路線バスに乗って「ミニ旅行」なんていかがでしょう。身近にあっても気付かなかった花の名所や温泉、公園など、お気に入りの場所を発見できるかもしれません。バスの乗り方が勉強できたり、家族のコミュニケーションが図れたり、子どもにとっても、よい体験になることでしょう。

県バス協会ホームページ (<http://www.busnet-gunma.jp/>) では、全バス路線の時刻や運賃を調べることができますので、ぜひ、活用してください。

編集 後記

今回の取材では、利用者にと安全に気持ちよく利用してもらえよう、各運行会社が努力していることがよく分かりました。

自動車を運転できない人にとって、バスは重要な移動手段であり、生活に直結する物です。また、自動車を持つている人も積極的に利用することで、環境に優しい生活ができます。公共交通機関はみんなを守り、育てていく物。どんどん利用していきたいと思います。

市民編集委員を終えて

おとしから本紙で企画や取材をしてきた市民編集委員の皆さんが、今号で任期を終えました。これまでの活動を振り返って、感想を語ってもらいました。

杉山 市郎

市民編集委員になって、多くのことを楽しく見聞できました。とても感謝しています。多くの人がこの企画に参加して、これからの市民編集のページに生かされることを願っています。

高橋 千佳子

2年間、編集委員として貴重な体験をすることができました。たくさんの人たちが、地域や人のため、あるいは自分自身の向上のため熱心に活動している姿を見て、刺激を受けました。また、取材や原稿を書く事で脳に刺激を与えることができ、脳の活性化にもなりました。大変お世話になりました。

古田島 俊憲

おさる山乃家の取材では、自然に囲まれた素晴らしい場所の存在を、富士見町の特色についての取材では、地元の人たちの「伝統を受け継いでいきたい」という熱い思いを知りました。市民編集委員の取材でしか出会えない人たちからいろいろな話を聞き、とても貴重な経験ができました。

大澤 幸恵

取材先でわたしたちを温かく迎え、協力してくれた人たちに感謝の気持ちでいっぱいです。多くの人に出会い、学ぶ機会をいただけたことにも感謝しています。ぜひ、皆さんも市民編集に参加してみてください。

杉崎 輝久

あつという間の2年でした。普段なかなか知ることのできない前橋市の施設、催し物の実態や実情を直に見聞きでき、とても得をした気持ちになりました。前橋のまちには魅力がいっぱい。市民として誇りを持ちましょう。

木塚 敦子

取材や記事の執筆をし、学生生活を送っているだけでは気付けなかった前橋市の姿を知ることができました。ton汁を調理した回はとてもいい経験になりました。2年間ありがとうございました。

五明 実乃里

広報作成に携われたことで、前橋市の良いところを知ることができました。また、実際にton汁の調理に挑戦したことで、前橋の食文化にも直接触れることができ、とても楽しかったです。ありがとうございました。

吉田 法子

昨年5月の合併に伴い、富士見地区から市民編集委員の仲間入りをしました。任期が短かったため、各地区や各分野における新しい動きや取り組みの片りんしか触れられませんでした。皆さんのことを学ぶことができました。深く感謝しています。